

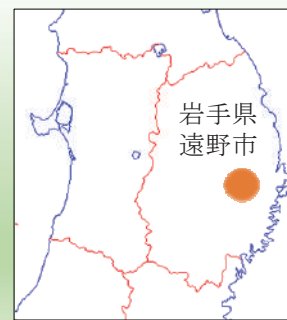
第3章 「観光・地域振興に活用されている馬」

観光・地域振興

東北有数の馬産地

遠野市

固有の馬文化を活かし、市を挙げて地域振興に繋げる



事業の概要

岩手県遠野市は、わが国有数の馬文化継承地である。藩政時代からの馬市、南部曲り家、木材の馬搬技術等の遠野固有の文化、本邦有数の乗用馬生産、地域の観光・産業振興を推進している。その一環として、馬搬の伝統文化の競技を「東北馬力大会 馬の里遠野大会」として開催している(主催者：「東北馬力大会 馬の里遠野大会実行委員会」、市役所内)。

この大会は、古くから馬産地として栄え、馬と人間が共に住む「南部曲り家」や馬にまつわる文化を育んできた遠野市が、山から木を切り出す地駄引きの技術を継承するためのイベントである。重りを乗せたソリを引き、コース上の障害2か所を乗り越える競技である。開催時期は毎年6月下旬、場所は遠野市宮森町柏木平優遊広場。平成28年度で42回開催された。第40回大会は平成27年6月28日(日)に開催され、約4,500人の来場があった。午前9時の開会式は大会会長(遠野市長)の挨拶からはじまり、その後に馬に重りのついた車を引かせ、高さ1mと2.5mの二つの坂障害が設けられた150mのコースを、年齢とそりの積載量(80貫300kgから260貫975kg)ごとに8種目に分かれレースが行われた(午前5レース、午後3レース)。制限時間は5分以内で、最後のレースのみ7分以内となっている。また通常のレースは鞭を使い二人一組で馬を誘導する

が、「ノスタルジーレース」という昔ながらの方法で、鞭を使わず一人で馬を先導して行うレースも行われた。人と馬が一体となって障害を乗り越える迫力ある姿に観衆も思わず力がこもる。塩や木材を運んだ馬搬という文化を生で体験できる貴重な機会である。平成26年は6,700人ほどの来場ということなので、大変な集客力である。まだ遠くまで知られているイベントではないため、来場者は近隣の住民が多いと思われるが、人と馬が一つ屋根の下で過ごしてきた曲り家の文化とともに、大切にしたい馬事文化である。



東北馬力大会 馬の里遠野大会

運営体制等

遠野市畜産振興公社「遠野馬の里」による事業運営

「遠野馬の里」には大規模な諸施設が設置されており、一般乗用馬の生産地においては国内最大級の規模といえる。

市の馬事振興ビジョンに基づき馬事文化の振興を担うのは、一般社団法人 遠野市畜産振興公社「遠野馬の里」である。昭和 46 年に市内松崎町駒木地区に、遠野の馬生産と育成を目的とした遠野市乗用馬生産組合が結成され、昭和 49 年度に乗用馬育成センターを建設。上閉伊畜産農業協同組合が運営管理に当たり、農用馬・乗用馬の繁殖事業、乗用馬の育成調教事業を実施する。その後、公共牧野の一元管理による公共牧場の運営充実化を目的に、社団法人遠野市畜産振興公社（放牧部）が昭和 62 年度に設立され、平成 10 年遠野馬の里が開所した。

平成 19 年～21 年度には、遠野市進化まちづくり検証委員会において「完全民営化方式への転換」及び「馬事振興ビジョンの策定」が緊急提言される。馬の里内に乗用馬用越冬放牧施設を建設。平成 23 年 10 月に競走馬部門は完全民営化方式に移行した。

一般社団法人 遠野市畜産振興公社「遠野馬の里」の現在の主な事業は、競走馬施設管理事業、ホースパーク事業、乗用馬育成事業の 3 つ。乗用馬育成事業では、第 40 回（平成 25 年秋）のセリで、3 歳馬エクサラ・ダンディが過去最高額の 335 万円で落札されるなど、品質の高い馬の育成・販売が軌道に乗り始めている。

(1) 競走馬施設管理事業

競走馬施設管理事業は完全民営化を行い、民間の会社に施設の貸出しを行っている。運営しているのは、株式会社遠野トレーニングセンター。遠

野トレーニングセンターが運営する施設を（有）グランド牧場、（株）MS 遠野の 2 社が利用している。平成 26 年度の競走馬利用実績は、平均 68.6 頭（月平均）と安定した経営が行われている。



一周 975m、幅員 18m の走路。素晴らしい景観。



季節を選ばず有効利用ができる屋内走路

(2) ホースパーク事業

（公社）全国乗馬楽部振興協会の支援を受けて、被災地支援活動や市内の保育園、小学校等の遠足で馬とのふれあい事業を実施している。「遠野緑峰高校馬事研究会」など教育機関との連携を図り、遠野馬の里内で活動を行っている。

平成 26 年度のふれあい体験引き馬利用者数は、遠野市内外の遠足や幼稚園、老人ホームの利用も含めて、春から秋にかけて 15 回 1,755 人、乗馬教室 684 人、合計 2,439 人である。遠野市さくらまつり、南部氏遠野入部行列（毎年 5 月）、宮古市開講 400 周年パレード、馬を活用した「交通安全パレード」上郷町・宮森町などを行っている。また、釜石線の「SL 銀河」の運行を記念して、列車と併走するお出迎えも実施。その他、全国やぶ

第3章 「観光・地域振興に活用されている馬」

さめ競技遠野大会、遠野市南部流鏑馬（毎年9月実施）を行っている。

(3) 乗用馬育成事業

スポーツ競技馬などの生産、調教、セリを行っている。平成25、26年度の遠野市乗用馬市場成績を下表に示す。

<乗用馬預託状況> H26年

	調教馬	休養馬	補助馬	基金馬	合計	越冬放牧
実績頭数	5頭	2頭	6頭	2頭	15頭	11頭
目標頭数	7頭	4頭	10頭	2頭	23頭	

<遠野市乗用馬市場成績>

年度	上場頭数	販売頭数	売却率
H26年	29頭	21頭	72.40%
H25年	31頭	26頭	83.80%

最高価格 (万)	最低価格 (万)	平均価格 (万)	総合計 (万)
321	12	102	2,152
335	16	90	2,356



荒川高原に放牧されている馬の群れ。早池峰山周辺の準平原に広がる牧草地を利用し、「夏山冬里方式」が採用されてきた。平成20年、国の重要文化的景観に選定され、早池峰山への登山コースでもある。

背景(地域連携、展望等)

1) 地勢：遠野市は、岩手県のほぼ南東部に位置し、北上高地の中央部の盆地にある。市の広さは東西に38km、南北に38kmで、面積は825.62km²である。東京23区より広く、佐渡島の面積とほぼ同じ大きさである。北上高地は全体が起伏の多い高原状の山地で、その中心部に遠野盆地が開けている。

2) 遠野の歴史と農業・馬事：柳田国男の遠野物語で有名な遠野地方は、鎌倉時代は阿曾沼氏が地頭として領有し、附馬牛の駒形神社付近は阿曾沼氏が牧場をもち馬産を勧めた。江戸時代、遠野は八戸から移った八戸南部氏が治めた。江戸時代の遠野の城下町の記録(1681(延宝9)年、幕府の巡検時の記録)によれば、人口は男1,003人、女889人の合計1,892人、馬は368頭となっている。



遠野ふるさと村の中にある南部曲り屋と馬(白号)

馬は南部藩の専売品として、農家は藩から馬を借りて養い、子馬はセリ売りして、その代金を藩に納め、手もとにいくらかの収入を得ていた。地主から馬や牛を借りて養うという馬小作や牛小作もさかんに行われた。

明治時代、軍馬の体格向上を目指す政府はサラブレッドやアラブといった軽種を、輓用馬(農耕馬や馬車馬など)にはペルシュロンやブルトンといった重種の導入を促進した結果、南部馬絶滅という結末を迎えた。

遠野市馬事振興ビジョン

遠野市は、馬事全般を貴重な地域資源と位置づけている。日本一の乗用馬生産地の確立を図るこ

とに合わせ、心の疲れた人々への癒しの機会の提供、地域の観光・産業振興及び交流人口の拡大策として、平成24年1月に「馬振興ビジョン」を策定した。

1. 馬事の振興

1) 遠野の馬事文化財の保存及び伝承者養成（遠野流鎬馬・馬搬地駄曳き）など。

(1) オリンピック出場馬の輩出（遠野産馬ブランド化）

(2) 森林環境保全型の木材搬出技術の継承

2) 畜産業：林業との連携、馬生産の安定化、繁殖技術向上及び技術者養成他（計画的生産）（人工授精・凍結精液製造技術）

3) ㈱遠野トレーニングセンターとの連携及び競走馬の育成調教、管理技術の活用

2. 教育・福祉事業との連携

1) 馬で人の疲れた心を癒すセラピー機会の提供

2) 馬の世話、乗馬訓練等とおし、情操面、礼儀面及び遠野の馬事文化面について指導

3. 観光交流事業との連携

1) 誰でも気軽に馬に乗り、遊べる地域環境づくりなど（ふれあい・引き馬・乗馬機会の増設）

2) 現代風の人と馬の暮らし方の提案と文化の伝承など（馬付き住宅・南部曲り家様式）

3) 人と馬との共同作業の伝承及び催事等の提供など（馬搬・馬車運行、馬力大会他）

馬を名誉職に充て、また、遠野産馬キャラクターを創設し、地域商業の活性化と遠野のPR活動を推進

<喫緊の課題～近未来に向けて>

千年もの長きにわたって馬と共に歩んで来た

遠野郷・・・。

今、“遠野馬”を取り巻く環境は「行動」のあり方次第で将来に向かって激動するかもしれないという岐路を迎えていると言っても過言ではない。

これからの“遠野馬”を考えると、まず頭に浮かんだのは、近い将来この地域から馬がいなくなってしまうのではなからうかという一抹の不安である。

現在、馬の生産活動の中心となっている年齢層は70歳を超えると聞く。この人達の後継者は？そして生産規模の確保は？これらの問題を最重要課題として早急に改善に着手しなければ次の世紀に遠野馬の姿を見る事は出来なくなり、「遠野物語」の中でしか馬について語られることもなくなる時が来るかも知れない。

官民一体となり馬事振興に取り組んでいる遠野市であるが、先述した問題を解決してゆく事は容易ではないと思われる。

この問題は遠野盆地の中だけで解決しようとしても最早限界であると思われてならない。

解決策の糸口として直近のタイミングで地域における教育活動の中に馬を積極的に取り入れ、外部から馬について学びたいとの志ある若者達が遠野に参集してくる状況が実現すれば、この問題は大幅な改善を見るものと思われる。これから先の千年も馬と共に歩む遠野郷であってほしいと願うばかりである。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○遠野市馬事振興課 ○遠野馬の里

〒028-0545 岩手県遠野市松崎町駒木 4-120-5

(URL) <http://www.umanosato.com/>

(TEL) 0198-62-5561